

# 取扱説明書

自走用車いす

## アクトモア レボ

## アクトモア レボ 介助ブレーキ付き

## アクトモア レボ3A

## アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き

超低座面20インチ / 20インチ / 22インチ / 高座面24インチ




このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。  
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項  
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

### 表示とその意味

この「取扱説明書」では、次のような表示を記載しています。よく読んで内容を十分理解した上で、ご使用ください。

製品の取り扱いに際して生じる危険を未然に防止するため、安全上の注意事項をその危険の大きさの程度に応じて、次のように分類して表示しています。

表 示	意 味
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡し、または重傷を負う内容について記載しています。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡し、または重傷を負う可能性がある内容について記載しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性がある内容、および物的損害が発生する可能性のある内容について記載しています。

## 株式会社フロンティア

# 1 ご使用上の注意

## ⚠ 危険

【死亡または重傷を招くもの】



- 急な坂道を下る場合は、後ろ向きで下ってください。  
前向きで下ると使用者が転落する可能性があります。
- 車道を通らないでください。  
車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道、または道路の右側を走行してください。
- スピードを出さないでください。  
スピードが出ているときの急カーブ、急停止は転倒するおそれがあり危険です。
- 溝や踏み切りの線路での脱輪、駆動輪の挟み込みには十分注意してください。
- 左右の駆動輪が確実に固定されているか確認してください。  
車軸中央のボタンを押すと駆動輪が外れる仕様になっています。  
固定されていない状態で操作すると駆動輪が外れる可能性があります。大変危険です。

## ⚠ 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 取り扱いが理解できないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。  
取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方（幼児や認知症の方など）が使用する場合には、保護者、介護者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤動作、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。
- 使用する前に駐車ブレーキの利きを必ず確認してください。
- 本製品から乗り降りするときは、必ず左右両輪の駐車ブレーキをかけてください。  
車いすが動いて事故につながる可能性があります。
- 乗り降りの際には駐車ブレーキのレバーに体重をかけないでください。  
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- フットサポート（足置き）に立ったり、直接体重をかけないでください。  
フットサポートが破損したり、バランスを崩し倒れるおそれがあります。
- 本製品を駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。  
坂道などの傾斜がある場所では、駐車ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒事故につながるおそれがあります。
- アクトモア レボ/アクトモア 介助ブレーキ付きの背角度や車軸を調整する際は、必要に応じて転倒防止バーを取り付け適切な位置に調整し使用してください。  
調整によっては、車いすが後方に転倒するおそれがあります。
- 転倒防止バーを取り付けた場合、転倒防止バーを使用しないまま走行しないでください。  
転倒するおそれがあります。
- 転倒防止バーを使用する際は、段差の乗り越え時に十分注意してください。  
転倒防止バーを下げたまま走行する場合、段差が大きい場合には乗り越えられず、転倒防止バーや車体が破損するおそれがあります。
- 本製品を持ち上げる際や折りたたむ際は、アームサポート（肘置き）やフットサポート（足置き）を持ち上げないでください。  
アームサポートやフットサポートが外れてケガをするおそれがあります。
- 走行中はアームサポート（肘置き）やフットサポート（足置き）は必ず取り付けて使用してください。  
走行中、体が不安定になり危険です。
- 本製品を物品運搬や歩行の補助具としてなど車いす以外の目的で使用しないでください。
- 本製品の使用者最大体重を守ってください。（P16「9 仕様」参照）
- 本製品は1人乗り用です。2人以上で座り、動かさないでください。
- バックサポート（背シート）やグリップ（押し手）に重い物などを掛けないでください。  
転倒するおそれがあります。

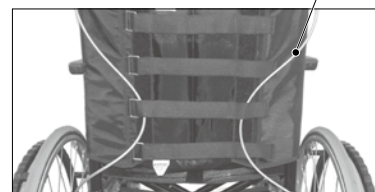


転倒防止バー

## 【アクトモア レボ 介助ブレーキ付き/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き】

- 介助用制動ブレーキは必ず両側同時にかけてください。  
バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- ディスクブレーキまたはドラムブレーキ部に注油しないでください。  
介助用制動ブレーキが利かなくなり、大変危険です。
- 長時間本製品を横に倒したりしないでください。また、本製品を逆さにしないでください。  
介助用制動ブレーキが利かなくなり、大変危険です。
- 介助用制動ブレーキに荷物などを掛けしないでください。  
破損・故障などの原因となり、介助用制動ブレーキが利かなくなるおそれがあります。
- 傾斜のある場所で停車するときは、十分注意してください。  
介助用制動ブレーキ作動時、駆動輪はロックされていても、キャストはロックされていないので、キャストが旋回して動くおそれがあります。
- ブレーキワイヤを傷つけたり、折り曲げたりしないでください。
- ブレーキワイヤを持って本製品を持ち上げないでください。  
破損・故障などの原因となります。
- ブレーキワイヤが本製品の突起部、利用者の体、物などに引っ掛からないように注意してください。  
破損・故障の原因となります。
- 介助用制動ブレーキを連続してかけ続けると、ディスクブレーキまたはドラムブレーキ部がブレーキ操作により高温になる場合があります。使用中、あるいは使用後すぐに触れないでください。  
やけどをするおそれがあります。
- 走行中、ディスクブレーキのキャリパー部に触れないでください。また衣類などが巻き込まれないように注意してください。
- ディスクブレーキの介助用制動ブレーキ部にあるリザーバータンクに、物をぶつけたり無理な力がかかからないようにしてください。また接合部分やふたを取り外したりしないでください。
- 雨天時、または路面が濡れていると、駆動輪がスリップしやすくなります。駆動輪がスリップすると制動距離が長くなり危険ですので、スピードを抑えて早めのブレーキ操作をしてください。

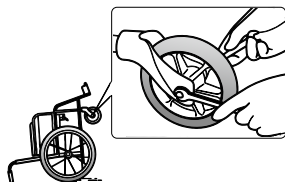
ブレーキワイヤ



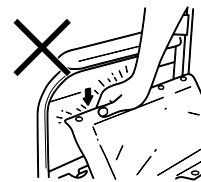
## ⚠ 注意

【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

- 乗る前に駆動輪・キャスト・駐車ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



- 車いすを開くときにシートパイプを握って押し下げないでください。手を挟みケガをするおそれがあります。



シートパイプを握って押し下げない

- 本製品に乗って1人で外出する際は十分ご注意ください。  
ゆるやかな坂道や小さな段差であっても、ハンドルをとられてしまったり、キャストが浮いて転倒するなどの危険があります。
  - 狭い空間を通り抜けるときは、ハンドリムと壁の間に手や指を挟むおそれがありますので注意してください。  
また、指を駆動輪やスポークに挟まないよう注意してください。
  - 本製品をたたむときは、アームサポート(肘置き)を握らないでください。  
手を挟みケガをするおそれがあります。
  - フットサポート(足置き)は、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、  
屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。  
屋内では敷居など、屋外では段差などにフットサポートが当たらないように注意してください。
  - 走行中、足がフットサポート(足置き)から落ちないようにしてください。
  - 走行中、体を乗り出さないでください。
  - 使用者が本製品に完全に座れているか確認してから走行してください。  
体の一部や衣服が駆動輪やキャストに挟まれていると危険です。
  - アームサポート(肘置き)を車いす本体に取り付けるとき、手や衣服を挟み込まないように、注意してください。
  - 駆動輪を握って車いすの操作をしないでください。  
駐車ブレーキに指を挟むおそれがあります。
  - 駆動輪のスポークに指を差し込まないようにください。  
ケガをするおそれがあります。
  - 分解や改造はしないでください。  
強度や耐久性が低下し危険です。
  - 本製品を火気に近づけないでください。  
座席のシートが燃えたり、熱くなった金属部でやけどをするおそれがあります。
  - ナット、ネジなどの細かい部品を紛失しないよう注意してください。
- 【アクトモア レボ 介助ブレーキ付き/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き】
- 長期間使用しなかった場合は、必ず介助用制動ブレーキの利きを確認してから使用してください。
  - 本製品を屋外に放置しないでください。  
ブレーキなどがさびる原因となります。

## 2 製品の特徴

### 【共通】

- 使用者の体や使用目的に合わせて、最大30ヶ所の車軸位置の調整をすることができる自走用車いすです。
- バックサポート(背シート)の背ベルトにより張り具合を調整できるため、使用者の体に合わせた調整が可能です。
- ノンパンクタイヤを採用しているため、空気圧のチェックやパンクの心配がありません。

### 【アクトモア レボ3A】

立体的な背角度の調整が可能で、円背の方や骨盤の変形がある方におすすめです。

# 3 各部の名称

※写真はアクトモア レボ 20インチです



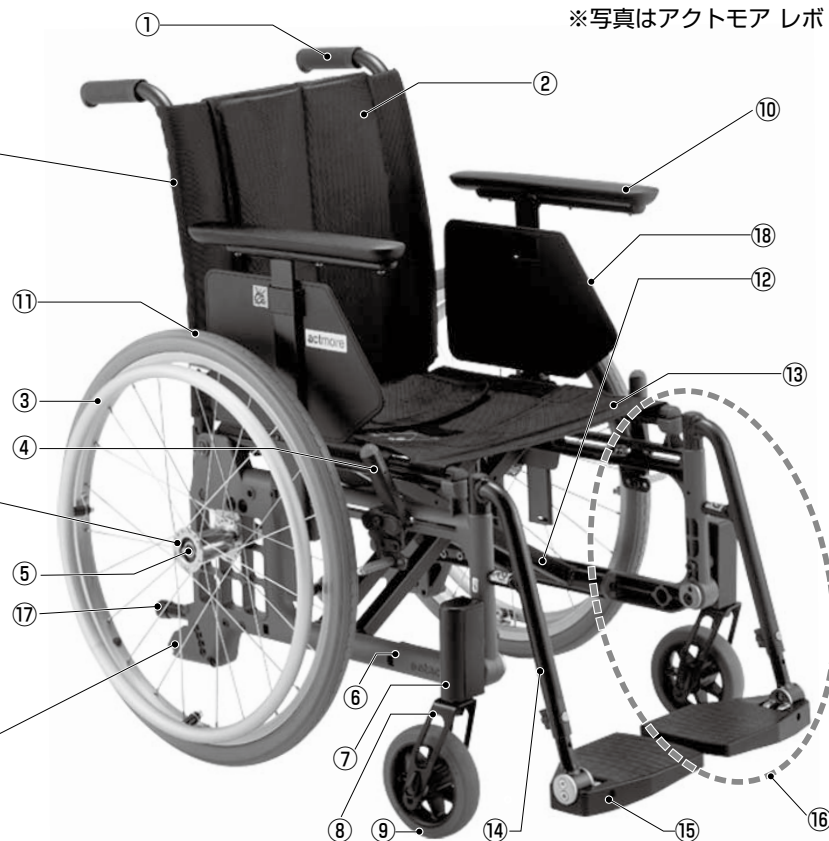
アクトモア レボ3A



ロックキャップ(オプション)



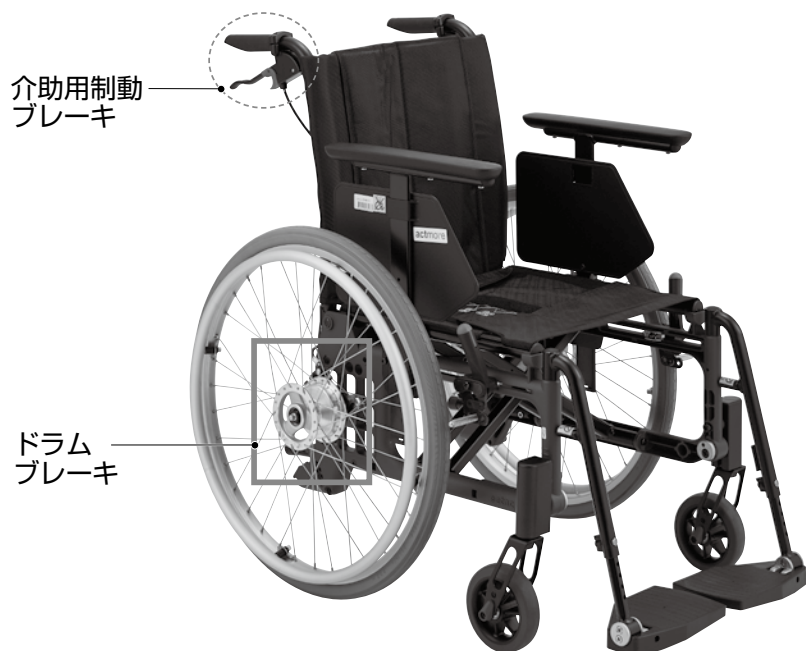
転倒防止バー(オプション)



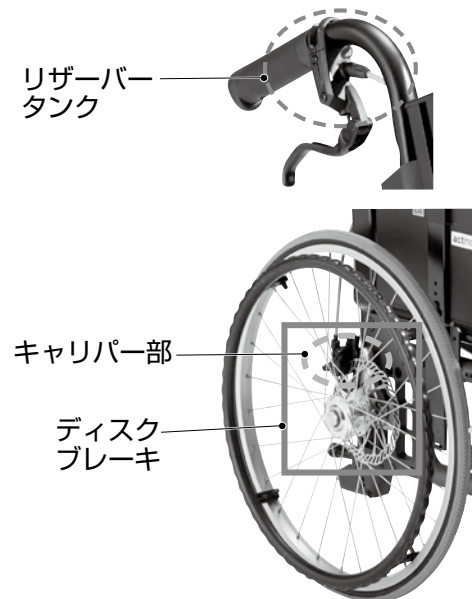
- ① グリップ(押し手)
- ② バックサポート(背シート)
- ③ ハンドリム
- ④ 駐車ブレーキ
- ⑤ 車軸(クイックリリース)
- ⑥ サイドフレーム
- ⑦ フロントフォークハウジング
- ⑧ フロントフォーク
- ⑨ キャスタ
- ⑩ アームサポート(肘置き)
- ⑪ 駆動輪
- ⑫ クロスフレーム
- ⑬ シート(座面)
- ⑭ レッグサポート
- ⑮ フットサポート(足置き)
- ⑯ フット・レッグサポート
- ⑰ ティッピングレバー
- ⑱ サイドガード(側板)

## アクトモア レボ 介助ブレーキ付き

【ドラムブレーキ仕様】



【ディスクブレーキ仕様】



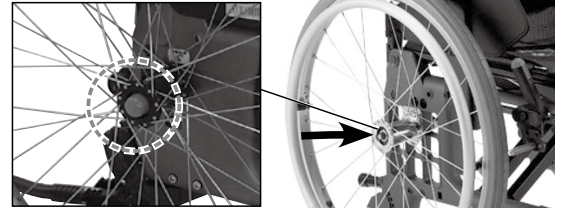


# 4 適合調整

## 1. 駆動輪の脱着

駆動輪を取り外すことができます。  
 車軸から側面に出ている中央のボタンを押しながら手前に引いて  
 駆動輪を外します。  
 ※取り付ける場合は、ボタンを押しながら車軸を本体に差し込んでください

ロックキャップ(オプション)



### ⚠ 危険

- 必ず駆動輪がしっかりと固定されているか確認してください。  
 差し込みが不完全の場合、走行中に駆動輪が外れてケガをするおそれがあります。
- 駆動輪の固定が定期的に確認できない場合には、ロックキャップ(オプション)の使用をおすすめします。

## 2. 車軸位置の調整

駆動輪の車軸位置とキャストの高さを調整することで、座面の高さや、操作のしやすさを調整することができます。  
 調整可能な寸法はP16「9 仕様」を参照ください。  
 また、使用者の身体状況や、使用目的に合わせて車軸の位置やキャストの高さの調整ができます。  
 ※車軸を調整する場合は、必ず当社までご連絡ください

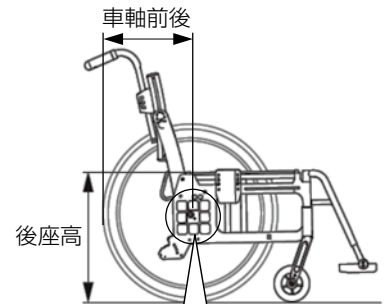
### 車軸の調整

#### 《後座高の高さ調整》

サイドフレームにあるB~Gの車軸位置を選び、後座高の高さを調整します。  
 ※Gの車軸を使用する場合は、専用ブラケットが必要となります  
 ※取付け可能な車軸の位置に調整してください(下表 取付け可能な車軸位置参照)

#### 《駆動輪の前後位置調整》

サイドフレームにある1~6の車軸位置を選び、  
 駆動輪の車軸を前後に調整します。

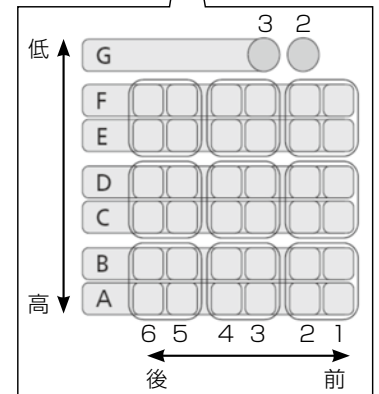


### ⚠ 警告

アクトモア レボ/アクトモア レボ 介助ブレーキ付きの車軸を  
 1~3までの位置に調整する場合は、必ず転倒防止バー(オプション)を取り付けてください。  
 (P9「4 適合調整 9.転倒防止バー(オプション)の調整」参照)

### 取付け可能な車軸位置

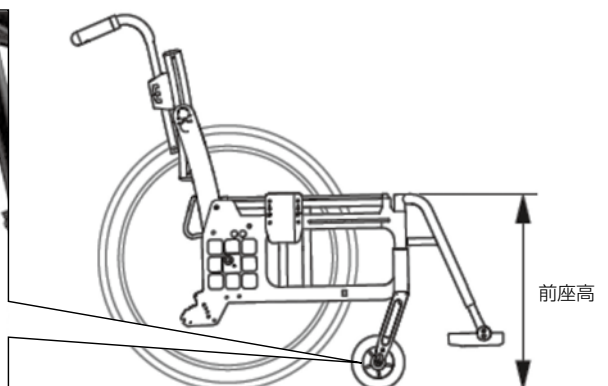
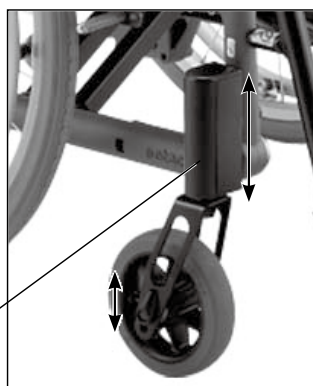
	車軸	
	高さ	前後
超低座面20インチ	E・F・G	2・3
20インチ	B・C・D・E・F	1・2・3・4・5・6
22インチ	C・D・E・F	
高座面24インチ	B・C・D・E・F	



### 前座高の調整

車軸位置に合わせて、前座高の高さを調整してください。  
 フロントフォークハウジングとキャスト高を調整することで前座高の高さを変えることができます。  
 ※前座高を調整する場合は、必ず当社までご連絡ください

フロントフォークハウジング



### 3.ハンドリムの調整

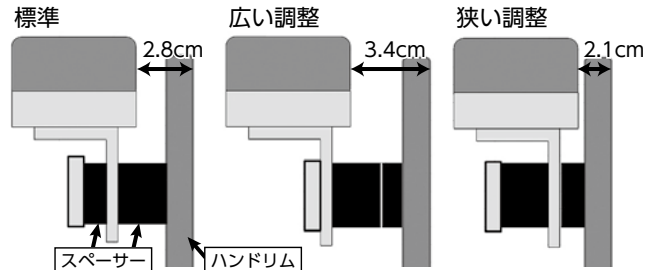
#### ハンドリムと駆動輪との間隔の調整のしかた

ハンドリムと駆動輪との間隔を調整することができます。

- ① 車軸から駆動輪を外します。(P6「4 適合調整 1. 駆動輪の脱着」参照)
- ② ハンドリムと駆動輪を固定している4ヶ所のネジを外します。
- ③ 駆動輪とハンドリムとの間隔は、3段階に調整できます。(下図参照)  
黒いチューブ状のスペーサーの位置を変えることで調整できます。
- ④ 位置を決めたら、外したネジとスペーサーを駆動輪にしっかり固定してください。  
調整を行った際は、調整箇所がすべて同じ間隔になっていることを確認してください。

#### △ 注意

- 指を駆動輪やスポークに挟まないよう注意してください。  
ケガをするおそれがあります。
- 狭い空間を通り抜けるときは、ハンドリムと壁の間に手や指を挟まないよう注意してください。  
ケガをするおそれがあります。



#### こぶグリップ(オプション)取り付けのしかた

ゴム素材のこぶ形状グリップなので、ハンドリムの操作がしやすくなります。

#### △ 注意

- 車いすの駆動以外の用途に使用しないでください。
- 肌に異常が現れた場合は、すぐに使用を停止し医師に相談してください。
- 長い下り坂などで使用する際は、摩擦によるやけどをするおそれがあります。
- 摩擦によって、手や衣服などに色がつく場合があります。
- 素材の性質上、特有のにおいがあることがあります。

#### 《右手用・左手用》

こぶグリップ(オプション)の側面に右手用には「Right」、左手用には「Left」の文字が印字してあります。

左右の確認をしてから取り付けてください。

#### 《ハンドリムのサイズ》

車いすのハンドリムサイズに合わせて、本製品の余分な部分を切り取って取り付けてください。

- ① ハンドリムに付着している汚れや油分を除去してください。
- ② こぶ側がハンドリムの内側を向くようにはめ込んでください。
- ③ 固定ベルトを4ヶ所取り付けます。最初にこぶグリップ(オプション)の合わせ目に固定ベルトを巻きつけてから、等間隔に他の固定ベルトを巻きつけてください。

#### △ 注意

- 固定ベルトの金具を内側に向けて取り付けてください。
- ねじれや合わせ目のすき間が広がらないように注意して取り付けてください。  
手や指を挟みケガをするおそれがあります。



### 4.アームサポート(肘置き)の調整

- ① アームサポートアタッチメント(肘置き差し込み口)は2段階に調整することができます。
  - ◆ ポジション1：17～26cm
  - ◆ ポジション2：22～32.5cm
- ② サイドガード(側板)の下部についているアームサポート高さ調整ネジを外して高さを調整します。(1cm間隔)



- サイドガード(側板)
- アームサポート高さ調整ネジ
- アームサポートアタッチメント(肘置き差し込み口)

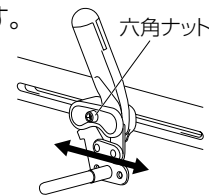
## 5. 駐車ブレーキの調整

駐車ブレーキの位置を調整することができます。

折りたたみ式延長ブレーキへの取り替えも可能です。折りたたみ式延長ブレーキは用途に応じて、固定式へ組み替えることもできます。(下記「折りたたみ式延長ブレーキのつけかた」参照)

### 駐車ブレーキの位置調整のしかた

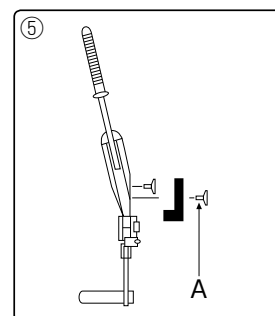
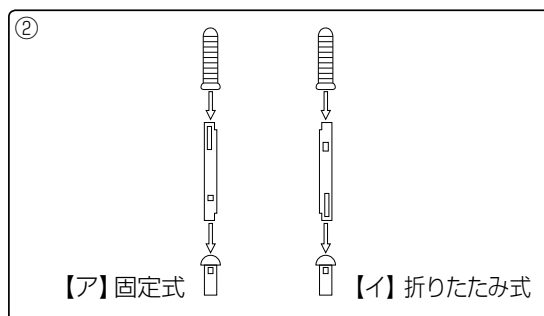
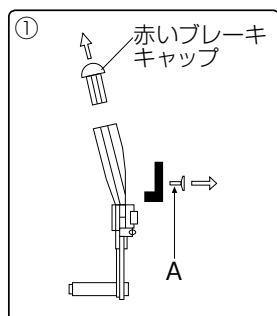
- ① 本体フレームの外側のブレーキを固定している六角ナットをゆるめ、前後にスライドさせます。ブレーキをかけていない状態で駆動輪から約2cm離れている程度がめやすです。
- ② 位置が決まったら六角ナットをしっかり締めます。



**△ 危険** 駐車ブレーキ調整後は必ず、駐車ブレーキの利きを確認してください。

### 折りたたみ式延長ブレーキのつけかた

- ① 駐車ブレーキ本体についている赤いブレーキキャップを外し、駐車ブレーキ横(本体内側)にあるネジ(A)を外します。
- ② 使い方に合わせて延長ブレーキレバーの向きを決めます。(【ア】固定式として使用 【イ】折りたたみ式として使用)
- ③ 延長ブレーキレバーを固定パーツに差し込みます。
- ④ 組み立てたブレーキを、赤いブレーキキャップを外した駐車ブレーキ本体に差し込みます。
- ⑤ 本体固定用のネジと①で外した(A)のネジを再度取り付けて固定します。



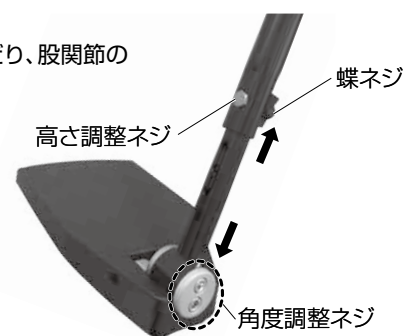
## 6. フット・レッグサポートの調整

使用者の体に合わせフット・レッグサポートの高さを調整することができます。

**△ 警告** 使用者が搭乗したままフット・レッグサポートを調整する場合は、足を挟み込んだり、股関節の可動域に支障をきたさないように十分注意して行ってください。

### フットサポート(足置き)の高さ調整のしかた

- ① フット・レッグサポートの支柱の下側についているレッグサポート高さ調整ネジを外し、六角ボルトを抜きます。
- ② 高さを調整し、外した六角ボルトを差し込み、レッグサポート高さ調整ネジを締めて固定します。



- △ 注意**
- フットサポートは、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。屋内では敷居など、屋外では段差などにフットサポートが当たらないようご注意ください。
  - ボルトを差し込むときは、六角ボルトの角とパイプの角を合わせてから蝶ネジで固定してください。ネジの取り付けが不十分だと、フットサポートが安定せず蝶ネジも外れやすくなるのでご注意ください。

### フットサポート(足置き)の角度・奥行き調整のしかた

#### 〈角度調整〉

- ① フット・レッグサポートとフットサポートの接続部分の角度調整ネジを2ヶ所ゆるめます。
- ② フットサポートの角度を調整し、2ヶ所のネジを締めて固定します。

#### 〈奥行き調整〉

フットサポートを左右入れ替えると、奥行きを変更することができます。

- ① 左右のフット・レッグサポートの支柱の下側についているレッグサポート高さ調整ネジを外し、六角ボルトを抜きます。
- ② レッグサポートからフットサポートを抜いて左右入れ替え、フット・レッグサポートに差し込み、高さを調整した後に固定します。

- △ 警告**
- フットサポートの上には絶対に立たないでください。転倒するおそれがあります。
  - フット・レッグサポートを持って、本製品を持ち上げないでください。フット・レッグサポートが外れ、ケガをするおそれがあります。



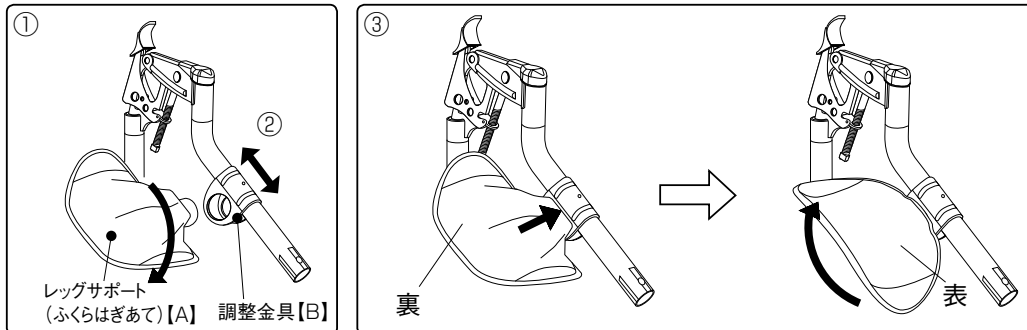
## 7.エレベーターフット・レッグサポート(オプション)の調整

エレベーターフット・レッグサポートは、ひざ下の角度調整をすることができます。

### レッグサポート(ふくらはぎあて)の調整のしかた

レッグサポート(ふくらはぎあて)【A】は身体状況に合わせて2段階に調整することが可能です。

- ① レッグサポート(ふくらはぎあて)【A】を回転させて調整金具【B】から外します。
- ② 調整金具【B】をスライドし上下させ、2ヶ所の穴のどちらかに調整します。
- ③ 調整後、調整金具【B】にレッグサポート(ふくらはぎあて)【A】を差し込み、回して固定します。



## 8.シート(座面)奥行き調整

シート(座面)の奥行きは37~42cm(バックサポートフレームからシート(座面)先端寸法)まで調整可能です。

- ① シート(座面)の手前側にある黒い面ファスナーをゆるめます。
- ② 使用者の身体状況に合わせてシート(座面)を前後させて、奥行きを調整してください。
- ③ 奥行きが決まったら、面ファスナーでしっかりと留めてください。

### △ 注意

調整を行った際は、左右の長さが同じことを確認してください。

### ポイント

軽く車いすをたたんだ状態で行うと、シート(座面)の奥行き調整がしやすくなります。



## 9.転倒防止バー(オプション)の調整 ※レボ3Aは標準装備

必要に応じて転倒防止バーを取り付けてください。

高さ、角度、長さの調整をすることができます。

### ポイント

転倒防止バーの小車輪が地面に接地したとき、キャスターと地面のすき間が5~10cmになるように調整してください。

高さ：2段階の調整ができます。

- ① 本体フレームにある角度固定穴のネジをレンチで外し、六角ボルトを抜いてください。
- ② 転倒防止バーを取り外し、180度回転させ本体フレームに差し込んでください。
- ③ 角度固定穴に六角ボルトを差しレンチでネジを固定してください。

角度：4段階の調整ができます。

4つの角度固定穴より1つ選び金具で固定してください。

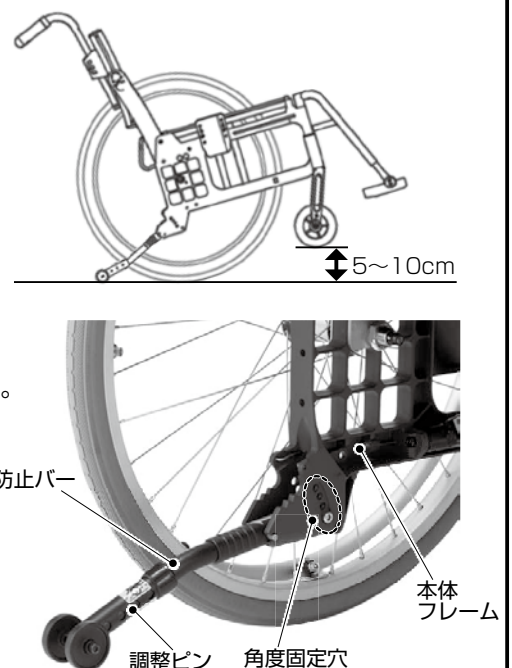
長さ：4段階の調整ができます。

調整ピンを押しながら穴の位置を変更してください。  
カチッと音がして穴に入ったことを確認してください。

### △ 警告

以下の設定の場合は必ず転倒防止バーを取り付けてください。

- 車軸位置を1~3に調整する場合(P6「4 適合調整 2.車軸位置の調整」参照)
- バックサポート(背シート)の角度を95度以上倒す場合(P10「4 適合調整 10.バックサポート(背シート)調整 角度調整のしかた」参照)
- その他車いすが後方に転倒するおそれがある場合



## 10.バックサポート(背シート)調整

### 角度調整のしかた

バックサポート(背シート)の角度は、アクトモア レボ / アクトモア レボ 介助ブレーキ付きは92~98度まで、アクトモア レボ3A / アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付きは85~110度まで調整できます。

#### ⚠警告

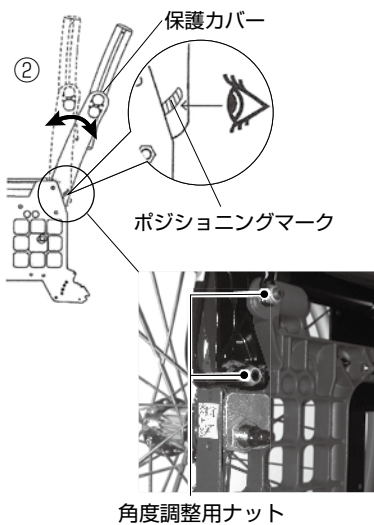
バックサポートの角度を95度以上に調整する際は、転倒防止バーを必ず取り付けてください。(P9「4 適合調整 9. 転倒防止バー(オプション)の調整」参照)後方に転倒するおそれがあります。

#### 【アクトモア レボ/アクトモア レボ 介助ブレーキ付き】

- ① バックサポートフレーム下端にあるナットを反時計回りにゆるめます。
- ② 使用者の体に合わせ角度を決め、2ヶ所の角度調整用ナットを時計回りに締めて固定します。

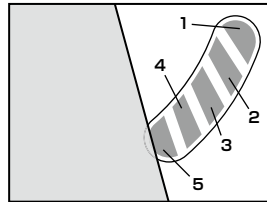
#### 【アクトモア レボ3A/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き】

- ① バックサポートフレーム下端に固定されている、2ヶ所の角度調整用ナットを反時計回りにゆるめます。
- ② ポジショニングマーク(下図参照)をめやすに使用者の身体状況に合わせて左右の角度調整をします。
- ③ 使用者の体に合わせ角度を決め、2ヶ所の角度調整用ナットを時計回りに締めて固定します。

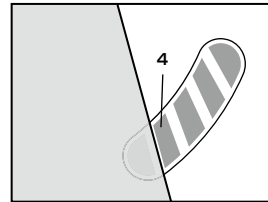


ポジショニングマークの目盛りと角度のめやす

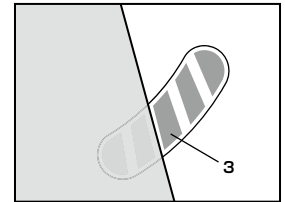
85度：目盛り凸部5つ



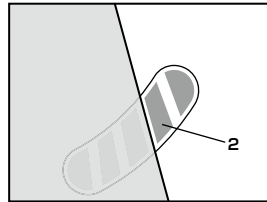
90度：目盛り凸部4つ



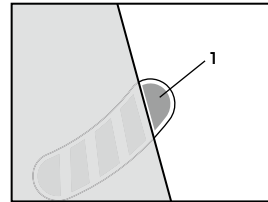
95度：目盛り凸部3つ



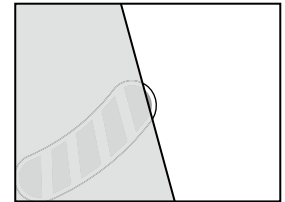
100度：目盛り凸部2つ



105度：目盛り凸部1つ

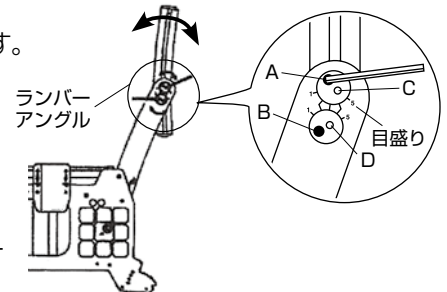


110度：目盛り凸部なし



- ④ 使用者の身体状況に合わせてランバーアングルの調整をすることができます。

- ① 保護カバーを外し、AとBのネジを六角レンチで反時計回りに1回転ゆるめます。
- ② 使用者の身体状況に合わせて、角度を決めます。  
角度はバックサポートフレームの側面にある各1~5の目盛りをめやすにして、CとDのネジを回して角度の調整をします。
- ③ 調整が終わったら、AとBのネジを時計回りに締めて固定し、保護カバーを取り付けます。



### 高さ調整のしかた

#### 【アクトモア レボ/アクトモア レボ 介助ブレーキ付き】

バックサポート(背シート)の高さは4段階2.5cm刻みで高さ調整できます。

- ① バックサポート(背シート)のカバーを外します。
- ② バックサポートフレーム上方にあるネジを外し、フレームカバーを上にはずします。
- ③ バックサポートフレーム下方の内側を向いている2ヶ所の高さ調整ネジを外し、バックサポートフレームを上下して左右の高さを決めます。
- ④ 外したネジを差し込み、レンチで固定しフレームカバーを元に戻します。

#### 【アクトモア レボ3A/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き】

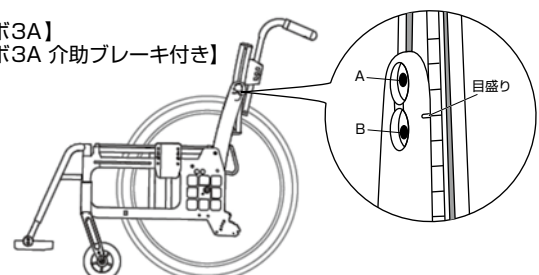
バックサポート(背シート)の高さは、無段階で調整することができます。

- ① 保護カバーを外し、AとBのネジを六角レンチで反時計回りに1回転ゆるめます。
- ② バックサポートパイプ裏面にある目盛りをめやすに、左右の高さを調整します。
- ③ 調整が終わったら、2ヶ所のネジを時計回りに締めて固定し、保護カバーを取り付けます。

高さ調整ネジ



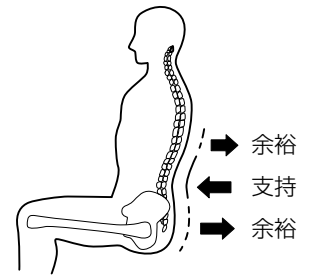
【レボ3A】  
【レボ3A 介助ブレーキ付き】



## バックサポート(背シート)の張り調整のしかた

アクトモア レボは5本のベルト、アクトモア レボ3Aは6本のベルトを使用者の体に合わせバックサポート(背シート)の張り調整をすることができます。

- ① バックサポートのカバーをめくりまします。
- ② 使用者の背中中の形状に合わせて、ベルトを張ったりゆるめたりして、面ファスナーで固定します。
- ③ バックサポートのカバーを戻します。



### △注意

- バックサポート(背シート)をゆるめるときは、使用者の体をしっかりと支えながら行ってください。バランスを崩すおそれがあります。
- バックサポート(背シート)を調整する際、強く張りすぎないように注意してください。バックサポートを強く張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。
- 背シートカバーの表裏・前後の向きに注意してください。
- 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。手入れをしないと接着力が弱まり、事故の原因となります。

## 11. グリップ(押し手)の高さ調整のしかた

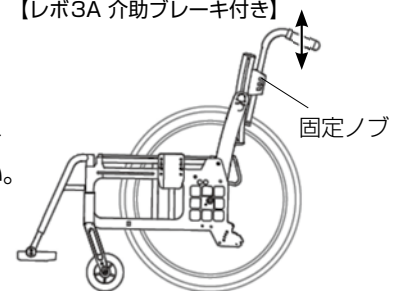
### 【アクトモア レボ/アクトモア レボ 介助ブレーキ付き】

P10「4 適合調整 10.バックサポート(背シート)調整 高さ調整のしかた」を参考にグリップ(押し手)の高さの調整をしてください。

### 【アクトモア レボ3A/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き】

グリップ(押し手)の高さは10段階で調整することができます。固定ノブを反時計回りにゆるめ、介助者に合わせて高さを決め、固定ノブを時計回りに締めてください。

【レボ3A】  
【レボ3A 介助ブレーキ付き】



### △注意

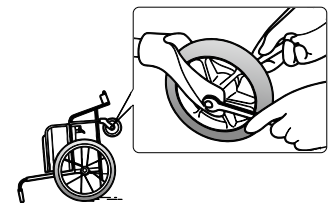
グリップ(押し手)下部の安全ボタンが、差し込み部分のプラスチックパーツの下に出ていることを確認してください。

# 5 使用前の準備と点検

ご使用前に以下の点を確認してください。

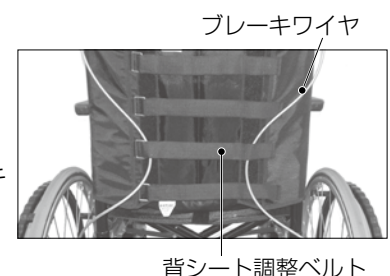
### 【共通】

- 駐車ブレーキが駆動輪をロックすること。  
駐車ブレーキの利きが悪いときには、当社へご連絡ください。
- 駆動輪が外れないこと。  
ガタついているときは、ただちに使用を中止し、当社へご連絡ください。
- キャスタのネジがゆるんでいないこと。  
ゆるんでいるときは、増し締めをしてください。
- フットサポート(足置き)は、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。  
屋内では敷居など、屋外では段差などにフットサポートが当たらないようご注意ください。



### 【アクトモア レボ 介助ブレーキ付き/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き】

- 駆動輪が回転したときに、異音があったり異常なブレがないこと。
- ディスクブレーキのローター(円盤部)にゆがみや変形がないこと。  
またはキャリパー部に異物などが付着していないこと。
- 介助用制動ブレーキを握り、左右のブレーキが利くこと。  
車いすを逆さにしたり横にした場合、ブレーキが利かなくなるおそれがありますので、逆さにしたり横にした場合は使用前に必ず介助用制動ブレーキを握り、ブレーキが正常に作動することを確認してください。  
ブレーキの利きが悪いときには、当社へご連絡ください。
- 介助用制動ブレーキのブレーキワイヤがたわんでいないこと。  
ブレーキワイヤは、背シート調整ベルトに挟み、たわまないようにしてください。  
ブレーキワイヤがたわんだ状態で使用すると、ブレーキワイヤを駆動輪に巻き込むおそれがあり危険です。



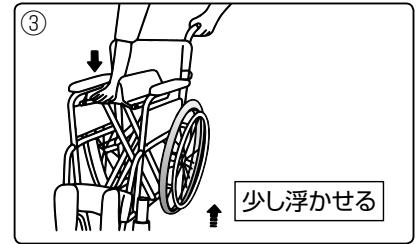
# 6 使用方法

## 1. 開きかた

- ① 駐車ブレーキを左右の駆動輪にかけておきます。
- ② グリップ(押し手)を持って軽く左右に開きます。
- ③ 片側の駆動輪を少し浮かせて、浮かせていない側のシートパイプの上を、手の平で押して開きます。

### △ 注意

シートパイプを握って開くと手が挟まれケガをするおそれがあります。

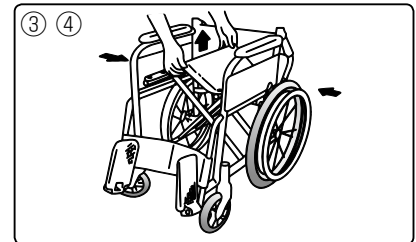


## 2. たたみかた

- ① 駐車ブレーキを左右の駆動輪にかけておきます。
- ② フットサポート(足置き)を両側とも上げます。
- ③ シート(座面)を持ち上げ、ゆっくりと左右を寄せます。
- ④ 両側からアームサポート(肘置き)を押さえてたたみます。

### △ 注意

本製品をたたむときは、アームサポート(肘置き)を握らないでください。  
アームサポートが外れ危険です。



## 3. フット・レッグサポートの使いかた

### 取り外すとき

フット・レッグサポートを垂直に持ち上げるだけで、どの位置からも外れます。

### 取り付けるとき

キャストの上部にある穴にフット・レッグサポートを差し込みます。

### スイングイン&アウトするとき

- ① フット・レッグサポートを垂直に持ち上げます。
- ② 内側または外側に回転させます。

### 【エレベーターフット・レッグサポート(オプション)】

身体状況に合わせて、適切な角度に調整してください。

### 角度をつける(上方に動かす)とき

エレベーターフット・レッグサポートの支柱を引き上げます。

### 角度を戻す(下方に動かす)とき

エレベーターフット・レッグサポートの支柱にあるレバーを手前に引きながら、フット・レッグサポートを下方方向に押し下げます。

### 取り外すとき

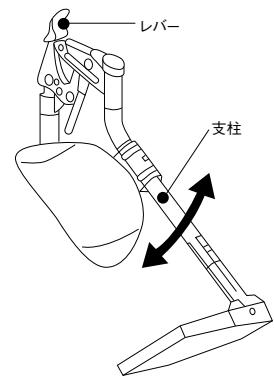
エレベーターフット・レッグサポートの支柱を垂直に上方方向に持ち上げるだけで、どの位置からも外れます。

### 取り付けるとき

本体側キャストの上部にある穴にエレベーターフット・レッグサポートの支柱を差し込みます。

### △ 警告

- フット・レッグサポートの操作時は、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行する前は、エレベーターフット・レッグサポートの支柱が確実にハマっていることをお確かめください。
- 介護者が押して移動するときには、必ずフットサポート(足置き)を取り付けた状態でお使いください。  
足がキャストにあたり危険です。
- フット・レッグサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。  
バランスを崩して倒れる可能性があり、大変危険です。





## 4. アームサポート(肘置き)の使いかた

### 取り外すとき

アームサポート(肘置き)を引き上げてください。

### 取り付けるとき

アームサポートアタッチメント(肘置き差込口)に、アームサポート(肘置き)が固定されるまで差し込んでください。

### ⚠ 警告

- アームサポート(肘置き)の取り付け・取り外しは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。車いすが勝手に動き出して大変危険です。
- 走行する前に、必ずアームサポート(肘置き)が取り付けられているか確認してください。
- アームサポート(肘置き)を持って車いすを持ち上げないでください。アームサポートが外れ、ケガをするおそれがあります。

## 5. 転倒防止バー(オプション)の使いかた ※レボ3Aは標準装備

### 使用するとき

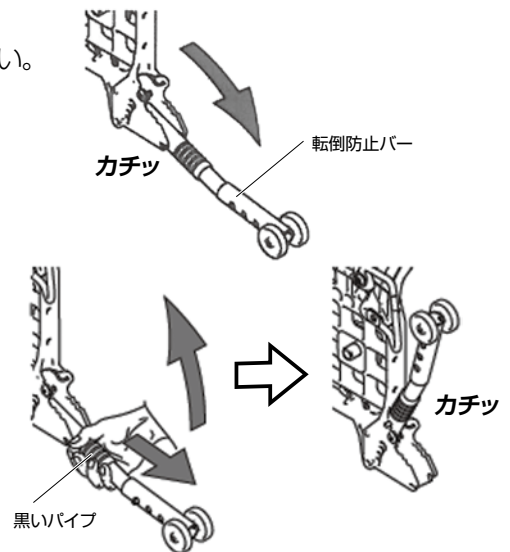
- ① 転倒防止バーをカチッと音がするまで地面に向かって倒してください。
- ② 転倒防止バーを上方に上げて、固定されているかどうか、確認してください。

### 使用しないとき

- ① 転倒防止バーに付いている黒いパイプを手前に引くと、ロックが外れます。
- ② そのまま背シート側にカチッと音がするまで上げてください。転倒防止バーが折りたたまれ、固定できます。

### ⚠ 注意

5cm以上の段差を乗り越える場合、転倒防止バーがあたりキャストが浮き上がらないので、必ず転倒防止バーを折りたたんだから操作を行ってください。



## 6. 駐車ブレーキのかけかた

ブレーキレバーを前方に倒すとロックし、レバーを後方に引くと解除されます。

### ⚠ 注意

- 車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。
- 傾斜地や平坦でないところでは駐車しないでください。傾斜地やすべりやすい床面では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。大変危険です。
- 駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損するおそれがあります。
- 駐車ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損するおそれがあります。

## 7. 移乗のしかた

移乗動作の準備をしてください。

- ① 駐車ブレーキを両輪にかけてください。
- ② 乗り移る側のアームサポート(肘置き)を取り外し、フット・レッグサポートは取り外すかフットサポート(足置き)を上げてスイングアウトしてください。

使用者の身体状況によって、移乗方法が異なります。下記の方法を参考に正しい移乗方法で行ってください。

### 1人で車いすに乗り移るとき

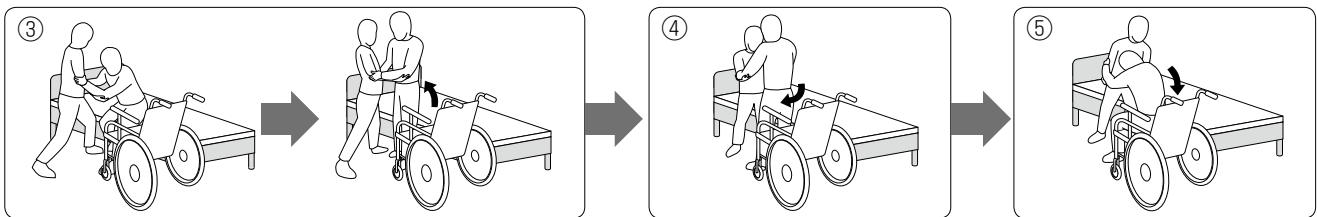
※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ③ 車いすをしっかりと保持し、腰を浮かせゆっくり乗り移ります。
- ④ アームサポート(肘置き)、フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑤ フットサポート(足置き)を下ろして両足をのせます。

### 介助者と車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ③ 介助者が相手の身体状況に合わせて、体を支えながら立ち上がらせます。
- ④ 移乗先の車いすへおしりを向けます。
- ⑤ 車いすのシート(座面)の奥まで座れるように、ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
- ⑥ アームサポート(肘置き)、フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑦ フットサポート(足置き)を下ろして両足をのせます。



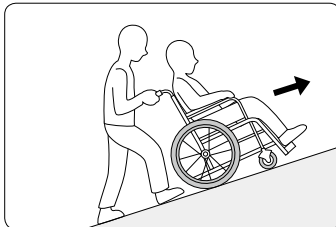
- △ 警告**
- 車いすが動き出し大変危険ですので、必ず駐車ブレーキをかけてください。
  - 危険ですのでフットサポート(足置き)の上に乗らないでください。

**△ 注意** アームサポート(肘置き)やフット・レッグサポートを戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

## 8. 外出時の注意点

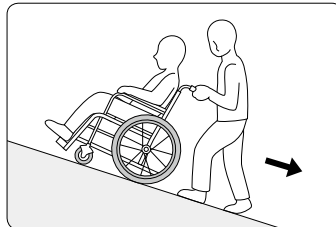
車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”が基本です。

### 坂道



〈上り坂〉

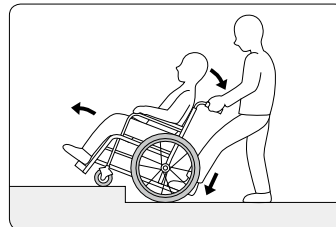
押す人は体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



〈下り坂〉

坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。

### 段差のある場所



〈上がる時〉  
ティッピングレバーを踏んでキャストを上げて進み、続いて駆動輪を押し上げます。

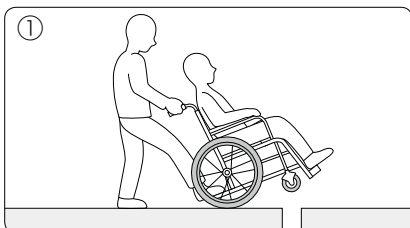
〈下るとき〉

後ろ向きでまず駆動輪をおろし、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。

※ 階段では車いす全体を持ち上げてください

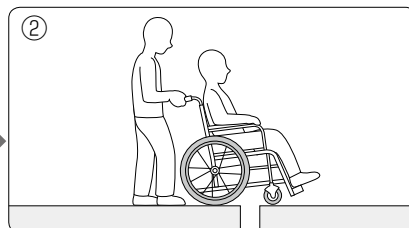
### 溝越え

※あらかじめ溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください

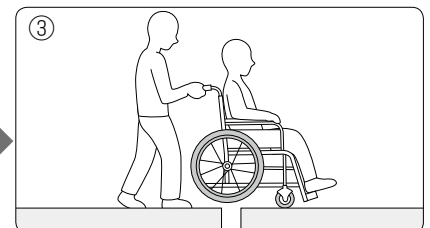


① ティッピングレバーを踏んでグリップ(押し手)を押し下げ、キャストを上げます。

※ この時、必ず声をかけてから行います



② キャスタを上げたまま前に進み、溝を越えた向こう側にキャストをゆっくり下ろします。



③ 次に駆動輪を持ち上げて前に進み、溝を完全に越えたところでゆっくりと駆動輪を下ろします。

**△ 注意** 転倒防止に十分配慮してください。(転倒防止バー(オプション)のご利用や、車いすの後方を支えるなどの方法があります。)

# 7 故障かな？と思ったら

故障でない場合もありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。

症 状	考えられる原因	処 置
車いすがふらつく、または、まっすぐ進まない	① キャスタが左右同じ高さになっていない ② フロントフォークアタッチメントが左右同じ角度になっていない ③ 駆動輪がきちんと取り付いていない ④ 使用者の体重が片側に寄っている ⑤ 車いすを動かす際に片側に力が加わっている ⑥ ネジ・ナット・ボルトが締まっていない箇所がある	① キャスタの調整が必要です。当社へご連絡ください ② 調整が必要です。当社へご連絡ください ③ 車軸のプッシュボタンを押しながら本体に差し込んでください ④ 体重が均等にかかるように座りなおしてください ⑤ 両側にできるだけ均等に力を加えてください ⑥ すべてのネジ類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる箇所があれば、当社へご連絡ください
車いすが重く操作しづらい	① キャスタが左右同じ高さになっていない ② フロントフォークアタッチメントが左右同じ角度になっていない ③ 駆動輪がきちんと取り付いていない ④ キャスタに埃などが巻きついている ⑤ キャスタに体重がかかりすぎている ⑥ 駐車ブレーキがかかっている	① キャスタの調整が必要です。当社へご連絡ください ② 調整が必要です。当社へご連絡ください ③ 車軸のプッシュボタンを押しながら本体に差し込んでください ④ キャスタを手で回転させて、巻きついているものを取り除いてください ⑤ 全体的な調整が必要です。当社へご連絡ください ⑥ 駐車ブレーキを解除してください
駐車ブレーキが利かない	① 駆動輪が磨耗している ② ブレーキパッドが駆動輪に当たっていない ③ 駆動輪とブレーキパッドの間に障害物がある	① 駆動輪の交換が必要です ② 駐車ブレーキの調整が必要です。当社へご連絡ください ③ 障害物を取り除いてください
キャスタがガタつく	① キャスタが左右同じ高さになっていない ② フロントフォークおよびフロントフォークアタッチメントがゆるんでいる ③ キャスタに体重がかかりすぎるなどバランスが悪くなっている	① キャスタの調整が必要です。当社へご連絡ください ② ゆるみ、角度が異なる場合は調整が必要です。当社へご連絡ください ③ バランスの調整が必要です。当社へご連絡ください
折りたたみにくい	① バックサポート(背シート)をきつく締めすぎている ② 座面下のクロスフレームに汚れがたまっている	① バックサポート(背シート)をゆるめて(張りなおして)ください ② 汚れを取り除いてください
駆動輪がガタつく	① 左右の車軸の長さが異なっている ② クイックリリースがロックされていない	① 車軸の調整が必要です。当社へご連絡ください ② 車軸のプッシュボタンを押しながら本体に差し込んでください
駆動輪が外しにくい	車軸(クイックリリース)部分に汚れがたまっている	汚れをふき取って、潤滑油を塗ってください

※ チェックをしても正常に使用できない場合、または破損や異常を発見した場合はすぐに使用を中止して、当社へご連絡ください

# 8 保守・点検

## 日常のお手入れ

- 使用前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態でお使いください。
  - ① 駆動輪、駐車ブレーキなどのゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
  - ② 駐車ブレーキの利き具合が悪いときはP8「4 適合調整 5. 駐車ブレーキの調整」を参照して調整してください。それでも直らないときには、当社へご連絡ください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを取り除いてください。

### 【アクトモア レボ 介助ブレーキ付き/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き】

- お手入れ後は、安全な場所に立てた状態で保管してください。  
横に倒して保管すると、駆動輪が曲がるなど故障の原因となります。
- ブレーキの洗浄またはメンテナンスにはイソプロピルアルコールか石鹼水を使用してふくか、乾いた布などでふいてください。

**△ 注意** ブレーキクレンザーや、なき止め防止剤などは使用しないでください。

# 9仕様 ( )内の寸法は介助ブレーキ付きのサイズです 下記寸法はシート(座面)を基準とした寸法です

製品名		アクトモア レボ/アクトモア レボ 介助ブレーキ付き			
		超低座面20インチ	20インチ	22インチ	高座面24インチ
座幅		37.5・40・42.5cm			
本体外形寸法 (cm)	全長	83~87.8		83~89	83~91.5
	全幅	58.5・61・63.5			
	全高	75.3~86.8	77.3~92.8	79.8~93.3	82.3~97.8
座面奥行き		37~42cm			
前座高 (cm)		34~39.5	37.5~44.5	38.5~44.5	42~49
後座高 (cm)		34・36・38	36・38・40・42・44	38.5・40.5・42.5・44.5	41・43・45・47・49
車軸位置		14ヶ所	30ヶ所	24ヶ所	30ヶ所
バックサポート(背シート)角度		92~98度			
アームサポート(肘置き)高		17~32.5cm			
フットサポート高 (cm)		25.5~31.5	33.5~36.5	33.5~36.5	33.5~41
折りたたみ時寸法		33cm			
重量 (kg)		約16.9(約18)		約17.2(約18.8)	約17.5(約19.1)
キャスタ径(ソフトタイヤ)		4インチ	5インチ		
駆動輪径(ノンパンクタイヤ)		20インチ		22インチ	24インチ
使用者最大体重(積載物含む)		100kg	135kg		
材質		フレーム:アルミ、座面:ポリアミド系樹脂			
ティッピングレバー		標準装備			
オプション		エレベーターフット・レッグサポート、折りたたみ式延長ブレーキ、転倒防止バー、ロックキャップ			

製品名		アクトモア レボ3A/アクトモア レボ3A 介助ブレーキ付き			
		超低座面20インチ	20インチ	22インチ	高座面24インチ
座幅		37.5・40・42.5cm			
本体外形寸法 (cm)	全長	88.5~88.8		88.5~90	88.5~92.5
	全幅	58.5・61・63.5			
	全高	68.5~118.5	70.5~128.5	73~129	75.5~133.5
座面奥行き		37~42cm			
前座高 (cm)		34~39.5	37.5~44.5	38.5~44.5	42~49
後座高 (cm)		34・36・38	36・38・40・42・44	38.5・40.5・42.5・44.5	41・43・45・47・49
車軸位置		14ヶ所	30ヶ所	24ヶ所	30ヶ所
バックサポート(背シート)角度		85~110度			
アームサポート(肘置き)高		17~32.5cm			
フットサポート高 (cm)		25.5~31.5	33.5~36.5	33.5~36.5	33.5~41
折りたたみ時寸法		33cm			
重量 (kg)		約18.4(約20)		約18.7(約20.3)	約19.0(約20.6)
キャスタ径(ソフトタイヤ)		4インチ	5インチ		
駆動輪径(ノンパンクタイヤ)		20インチ		22インチ	24インチ
使用者最大体重(積載物含む)		100kg	135kg		
材質		フレーム:アルミ、座面:ポリアミド系樹脂			
転倒防止バー		標準装備			
オプション		エレベーターフット・レッグサポート、折りたたみ式延長ブレーキ、ロックキャップ			

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

## 株式会社フロンティア

フクシのクトハ

フリー  
コール **0120-294-518**

福祉本部 〒261-0002  
千葉県千葉市美浜区新港 42-4  
TEL.043-301-8338



## ●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店